

# まえがき

大学で文系の講義科目を担当していると、「数学は高校であまり習っていない」とか「数学は苦手だ」という声をよく聞く。「数学が苦手なので文系に進学したのに、また大学でも数学の講義があるのか」と大学に入学して初めて気づく学生もいる。数学は大学の他の講義科目・演習科目でも必要な場合もあるが、それらの講義科目・演習科目をすべて避けて通ったとしても、社会への入り口である公務員試験や就職試験の適正検査であるSPI等でもやはり必要になり、とにかく避けては通れない。また、社会に出ていざ活動をしようとするとき、そこで出くわす様々な社会現象を理解するためには、現象そのものの理解や現象の分析には数学が必要であることは明らかである。

本書では経済学部や経営学部などの社会科学を学ぶのに必要な数学の知識を説明する。経済学部と経営学部においては、学部として目指すところは多少違うのであるが、基本は同じ社会科学であり、学習する数学は大きく変わらない。また、先に述べたように、公務員試験や就職試験のSPI等で必要な数学を意識し、それらの内容も盛り込んだのが本書の特徴でもある。本書の内容ですべての試験範囲が網羅されているわけではないが、本書を学習して、公務員試験やSPIで有利な立場に立つことができるようになることを望む。

高校の数学は非常に豊富な内容であるが、それをすべて学習するのではなく、特に文系コースを進んできた人は高校の早い段階で数学から離れることになり、大学に入学した時点では高校数学で配当された多くの単元を学習していない、あるいは学習したが忘れてしまっている状況であることが多い。そこで

本書では、そのような学生のために、基礎から学ぶことも想定し、あるいは以前に習ったことの復習も想定して説明している。ただし、時間的な制限もあるので、早く理解できるように要点を説明するなど工夫をしている。

本書の構成としては、第3章までが半年2単位の内容、第4章と第5章で後の半年2単位の内容となっている。数学は講義を聞いただけでは身につかず、問題演習を繰り返して身につけるのである。他の科目とは違って知識を覚えることが主ではなく、覚えたことをいろいろな問題に活用することが大切である。また、各章末にその内容に関連する公務員試験や就職試験のSPI等の問題を演習として載せている。本文の内容を理解して章末問題で力をつけて公務員試験や就職試験に臨んで欲しい。

本書は数学が得意でない学生のために、少しでも理解を進めるためにはどうすれば良いかが発端である。さらに、どうせ学習するなら、就職のときにも役に立つ方が、学生の学習しようとする動機を与えられるのではないかと考え執筆を思い立った。第1章と第4章の執筆は塩出、第2章と第3章は上野、第5章は柴田が担当し、各章末の演習問題は長年公務員試験の数的処理問題対策を担当してきた中村が担当した。

本書の製作にあたり、共立出版の寿日出男氏に相談したところ本書の出版に辿り着いたものであり、深く感謝したい。また、校正等でお世話になりました中川暢子氏にも感謝したい。

2017年1月

塩出省吾